

1 目的

硬膜外麻酔を用いて産痛の緩和を図る

2 目標

安全に分娩が終了する

3 当院での適応

硬膜外無痛（和痛）分娩を希望し医師の診察にて適応可能と判断した妊婦

初産婦はオンデマンド、経産婦は計画とオンデマンドの選択となる

4 妊娠中の流れ

医師の診察にて硬膜外無痛（和痛）分娩可能となった場合、妊娠 32 週頃のバースプラン確認時に「硬膜外無痛（和痛）分娩をご検討中の方へ」のパンフレットを渡し硬膜外無痛（和痛）分娩への不明点等ないか確認を行う

5 入院時の流れ

〈計画分娩の場合〉 前日 16:00 入院

同意書・検査結果の確認、CTG モニタリング、弾性ストッキングのサイズ計測、当日朝の流れ・絶食の時間を説明

〈オンデマンドの場合〉 入院時

同意書・検査結果の確認、CTG モニタリング、弾性ストッキングのサイズ計測、入院後の流れ・絶食説明

※オンデマンドの場合当院規定の硬膜外無痛（和痛）分娩可能な時間帯で医師により実施可能と判断された場合のみ適応となる

6 計画無痛(和痛)分娩当日の流れ

7:45 頃 LDR へ移動しルート確保後補液開始、CTG・血圧計・心電図・SpO2 モニター装着弾性ストッキング着用を確認

8:30 頃より診察、硬膜外チューブ挿入開始のため介助

硬膜外チューブ留置しテストドーズ実施し持続投与開始後に膀胱留置カテーテルを挿入、以後当院規定の観察項目・観察頻度に沿って観察・ケアを行い必要時適宜医師へ報告を行う分娩進行に合わせて適宜必要な準備を行う

〈分娩後〉

分娩終了後に医師が硬膜外チューブの抜去を行うため介助、通常分娩後観察とともに運動神経麻痺等の異常がないか観察

〈分娩に至らなかった場合〉

進行見られない場合は医師の判断にて夕方に硬膜外麻酔の持続投与を中止、翌日再実施の場合は硬膜外チューブが抜けないように留意し入院継続の上経過観察

退院希望の場合は硬膜外チューブ抜去後も運動神経麻痺等の異常がなく独歩が可能であることと、膀胱留置カテーテルを抜去し自尿の確認ができれば次回来院日を説明し退院